



～戮力協心～ NO.13

2023年11月28日

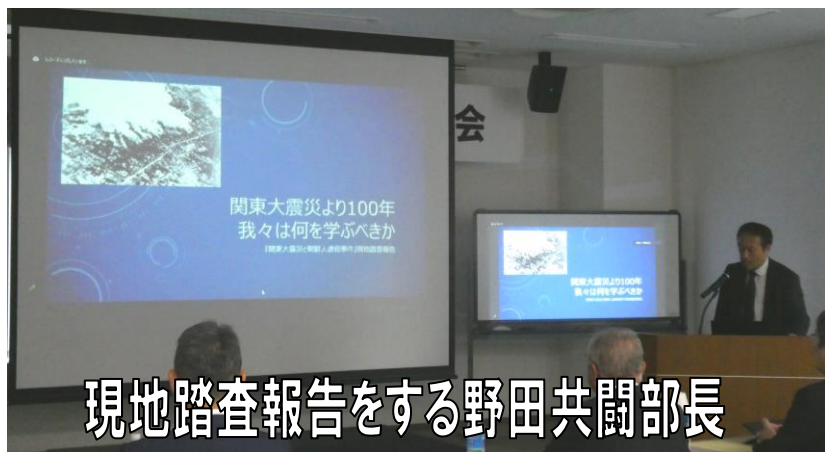
発行責任者 池尻 和寛

編集責任者 情 宣 部

JR総連・9条連共催平和集会に参加!!

11月7日に「JR総連・9条連共催の平和集会」にJR貨物労組・JR貨物労連20名が会場に結集、各地においてもリモート参加で結集しました。主催者を代表して、JR総連山口委員長、9条連秋山事務局が「今こそ戦争反対！憲法改悪反対！の声をあげ、平和運動を通じて仲間を増やしていかなければならない」「イスラエル・ハマスの一刻も早い停戦の実現とともに、永久の戦後にするためにも社会に訴えていこう」と力強い挨拶がありました。

9条連からの問題提起として「関東大震災100年 我々は何を学ぶべきか」をタイトルに、関東大震災と朝鮮人虐殺事件の現地踏査報告を貨物労組の野田共闘部長が9条連事務局として、プロパガンダに騙されることなく、真実を見抜き、空気に流されないことの必要性を訴えました。



現地踏査報告をする野田共闘部長

第2部として、元文部科学事務次官で「現代教育行政研究会」代表の前川喜平氏より「新たな戦前に抗し、平和・人権・民主主義を守り抜こう」をテーマに講演が行なわれました。その中で、「憲法は権力者を縛るもので、国民が知らないを良いことに変えようとしている」「軍産複合体は戦争がないと存在の意味がなく、戦争を引き起こそうとするもの」「学会会議の任命拒否ができなくなったのは憲法違反であり、違う形で学会会議の解体を目論んでいる」「平和・人権・民主主義を守り抜くためには『政治教育』が重要。自分の頭で考えられる子供たちを育てることが平和への道」と訴えました。



前川喜平氏

質疑応答において、JR貨物労組青年部の池尻青年部長から「現在の教育で、平和・人権・差別などの教育が以前までできていたことが、今ではできないということを知った。そして現在のマスメディアの報道の在り方では、気づけないのが実態であり、そういう若者たちにどのようなアプローチをした方が良いのか？」という質問に対して「自分で考えられる人が教えていかななくてはいけない」「現在の学校教育に文科省が介入していることから、以前のような教育ができなくなったということがある、文科省の介入は問題である」とアドバイスがありました。

最後に9条連齋藤事務局長のまとめで、「戦争の本質を学び、平和を守っていくための砦を築いていくために行動していく」ことを全体で確認し、集会を終えました。

